

報告書

愛知県豊田市にある“重要伝統的建造物群保存地区”**足助（あすけ）**に水道水を使用する初期消火道具「街かど消火ハリアー」が設置されました。

- ・2020年8月“足助”の古い町並みの防火対策として“街かど消火ハリアー”21台が丈夫な木製の箱に収納され、設置されました。

足助の町並みの歴史

尾張・三河から信州を結ぶ伊那街道（中馬街道）の重要な中継地にあたり、物資運搬や庶民通行の要所として栄えた商家町です。重要な交易物であった“塩”はここで詰め替えられ「足助塩」「足助直し」と呼ばれました。安永4年（1775年）の大火直後から町は再建され江戸時代後期から明治末までに建てられた建物が数多く残っています。（文化財課資料より）

足助の町屋建築の特徴

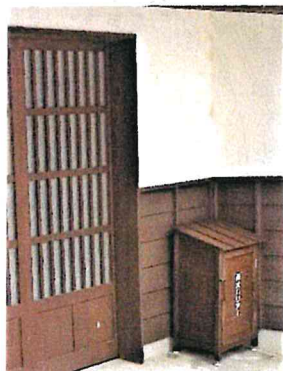
漆喰塗2階建ての町屋で、防火を意識した瓦葺きが普及し屋根勾配が比較的急になっています。1階には庇を設け、部戸の痕跡を残す家が多く、商家町の特徴を示しています。（同上）

街かど消火ハリアーの取り組み

2016年8月名古屋市立大学大学院教授・志田弘二様のお声掛けから始まり、その後、伝建のブロック大会や“街かど消火ハリアー”を使用した地区住民参加の消火体験など、豊田市文化財課足助分室の方々の推進にて市の予算化が決定されました。

具体的には、足助自治区内の防災担当者を中心に「ハリアー」の設置場所と同時に給水栓（蛇口）の検討が進み、現在は、伝建地区内に21台が設置されています。また、伝建地区の周辺地域でも「ハリアー」の導入が検討されており、更なる防火の充実が期待されます。

- 収納箱は木製の重厚な作りです。地元の木工業者の製作で消火器の箱と共に町並みの景観に大変マッチしております。写真をご覧ください。裏面にエリア内の配置図がございます。



(株) 街かど防災ラボ



重要伝統的建造物群保存地区

足助 (あすけ)



●印…街かど消火ハリアー

本
景勝地：香風溪
源
流

景勝地：香風溪



2020・9・15

株式会社 街かど防災ラボ

埼玉県さいたま市桜区大久保領家 497-8